SHONAN VISION
Social Magazine
Vol.53
2022.01

BLUE FLAG Japanサミット2021 実施報告書

NPO法人湘南ビジョン研究所
NPO法人 FEE Japan

実績概要

名　　称　LUE FLAG Japan サミット2021
開催日時　2021年11月20日（土）8時30分～11時30分
開催場所　オンライン形式（Zoomを使用）
目　　的　ブルーフラッグは、1985年にフランスで誕生し、現在世界49ヶ国、約4,820ヶ所ビーチやマリーナ等が取得しています。国内においては、2016年4月に鎌倉市「由比ガ浜海水浴場」、高浜町「若狭和田海水浴場」、2019年4　月に神戸市「須磨海水浴場」、山武市「本須賀海水浴場」、2021年4月に藤沢市「片瀬西浜・鵠沼海水浴場」が認証され、国内5か所のブルーフラッグ認証海水浴場が誕生しました。しかし、自治体が抱える海岸の課題は多様で、各地域では試行錯誤しながら毎年ブルーフラッグ認証を更新しています。そこで、この度、国内5都市のブルーフラッグ認証海岸の関係者が一堂に会して認証取得の意義を再確認し、ブルーフラッグビーチの現状と課題を共有するとともに、国内におけるブルーフラッグ認証地域の普及による海辺からのSDGsの実現に貢献することを目的に「BLUE FLAG Japanサミット2021」を開催します。

実施内容　第１部
①開会・主催者代表挨拶
②基調講演
第２部
③事例報告
④活動紹介
第３部
⑤研究報告
⑥総括・閉会

主　　催　NPO法人湘南ビジョン研究所
NPO法人FEE Japan
後　　援　文教大学湘南総合研究所
参 加 者　100人

主催者代表挨拶

本日は第3回BFサミットJapanにご参加いただきありがとうございます。

ブルーフラッグとは、私たちの暮らしを豊かにしてくれる　海に関わる環境認証です。世界で最初にできた歴史ある環境認証で今から36年前の1985年にフランスで生まれました。2021年11月の段階で世界50か国、4,831カ所のビーチ・マリーナ・観光船舶で取得されています。日本では2021年までに5つのビーチが認証を受け、2022年はさらに1つのビーチと1つのマリーナが誕生することが期待されています。ブルーフラッグを取得するには、例えば海水浴場だと「環境教育と情報公開」「水質」「環境マネージメント」「安全とサービス」の４つのカテゴリーに分けられた33の基準、マリーナはさらに「CSR」「社会やコミュニティへの参画」を加えた37の基準を満たす必要があります。

基準を満たすという大変なハードルの他にも、審査は国内審査と国際審査があり、その両方で認められなければなりません。またこの審査を通過し認証を取得しても、毎年更新が必要となります。この毎年更新するということ、つまり継続して基準を満たしていくということが、持続可能な発展のための行動としては大変重要です。

このような厳しい認証にもかかわらず、世界中でブルーフラッグの取得が増えつづけています。これはBFを取得することが、地域の経済的側面と環境的側面を両立させる持続可能な開発SDGs　につながると世界的に高く評価された結果であり、ブルーフラッグをかかげ続けていくことは　その地域の誇りとなっているからだと言えます。

FEE Japanは2007年に南アフリカで行われたFEE国際本部の総会で承認を受け、FEEの日本のメンバーとしてGKそしてLEAF、エコスクール、BFと日本での活動を拡大してまいりました。早いもので、来年で15年、特にブルーフラッグは本当に多くの方々に支えられここまで広げてこられました。最初に取得した2つのビーチを始め、すべての認証ビーチが今日まで継続してくださっていることに改めて感謝と称賛を送ります。

既にBFの申請団体の皆様にはご案内しておりますが、FEE Japanは国際本部の会員組織を離れており、今年度の認証終了までは国際本部からの委託でBFの認証に関わらせていただいております。この度、新しい日本の会員が国際本部から承認を受けましたので、まずはGKをそして来年度からはBFも新しい組織が運営していくことになります。近いうちにその団体から正式な文書が出されますが、BFは新たな団体からの新たなエネルギーが追加され、さらなる発展をするための次のステージに入るということになるでしょう。

これからは一個人としてブルーフラッグを応援し続けていきたいと強く思っております。皆様、今後ともどうぞBFを宜しくお願いいたします。本日のBFサミットでは登壇者からの海への、ブルーフラッグへの、尊い（あつい）想いを感じていただければ幸いです。

第1部 基調講演

人工知能（AI）を用いた海洋プラスチックごみの現存量調査に向けた取り組み

国立研究開発法人 海洋研究開発機構(JAMSTEC)
副主任研究員　松岡大祐氏

■JAMSTECにおける研究開発

国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)は、平和と福祉の理念に基づき、海洋に関する基盤的研究開発および学術研究を統合的に執り行う文部科学省所轄の研究機関です。2019年4月よりスタートした第4期中期計画では、「海洋状況把握(MDA)」体制の確立や、海洋における「Society　5.0」の実現、「持続可能な開発目標(SDGs：Sustainable　Development　Goals)」達成のための各研究開発課題が設定され、現在、3年目を終了しようとしているところです。

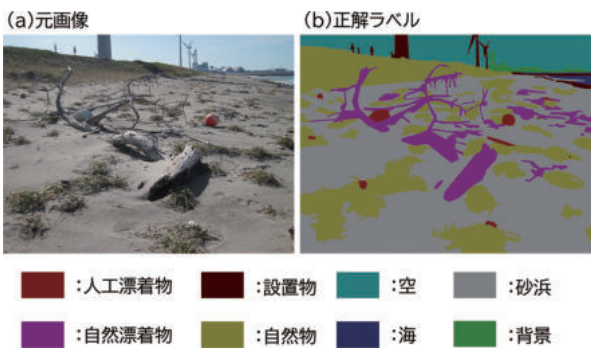
今中期計画では、近年さまざまな分野においてブレイクスルーを起こしている「人工知能(AI)」技術の利活用が各課題の中に盛り込まれており、気象学や海洋物理学、水産学、地質学、海洋掘削、地震・津波等において精力的に研究を進めています。その中の一つの課題として進めている、AIを用いた海洋プラスチックを始めとした海ごみの現存量調査に向けた取り組みについてご紹介します。

■AIを用いた海ごみ研究

近年のAIの流行の中心は、人間の脳の神経回路を模したニューラルネットワークです。ニューラルネットワークを多層化し、認識対象のもつ特徴的なパターンを膨大な量のデータから学習することで、画像や音声、文章等の認識において従来手法を大幅に超える性能を達成してきました。例えば画像の認識であれば、写真に対してカテゴリーを分類したり（クラス分類）、物体の写っている領域を検出したり（物体検出）、被写体から何らかの数値を推定したり（回帰）といったことが実現可能です。

JAMSTECでは、画像のピクセル（画素）単位でのクラス分類を行うセマンティック・セグメンテーションと呼ばれるAI技術を用い、海岸においてデジカメで撮影した写真から漂着ごみを検出する技術を開発してきました。ここで欠かせないのが、学習用のデータの存在です。我々は山形県が海岸モニタリングの一環で撮影した7000枚の海岸ごみ写真を用い、その1枚1枚に対して各画素が意味するラベル（人工ごみ、自然ごみ、空、砂浜、山等）を割り当て、元の写真と合わせて学習用データセットを作成しました。

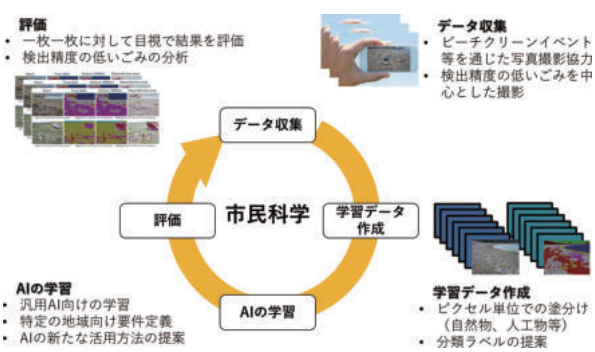
開発した技術を用いることで、地上からスマホ等で撮影した写真に対して、プラスチックやビン、缶等の人工物や、流木や灌木、海藻等の自然物を検出することが可能になります。また、ごみの検出結果を、上空から撮影した構図に射影変換することで、ごみの被覆面積や海岸の清潔度を推定することにも応用可能です。



■今後の展開

我々が開発しているAI技術は、様々な海岸の写真に対して適用することが可能です。一方で、AIが学習していない種類（色や形、大きさ等）のごみに対しては、認識精度が低下することも分かってきました。今後、世界中のさまざまな特徴をもつごみの写真を集めることで、全世界のビーチに適用可能な汎用的なAIや、個々のビーチに特化した専用的なAIに進化させることが考えられます。

そのためには、研究者だけでなく自治体やNPO、教育関係者、子供たち等、さまざまな立場の人が海岸ごみの写真を撮影したり、撮影した写真に対するラベル付けしたり、またはAIの新しい活用方法を考えたり、みんなで一緒になって研究活動に参加し、社会をより良くしていこうとする「市民科学」に大きな期待をもっています。



第2部
民間団体によるアジア初のブルーフラッグ取得への挑戦　事例① 片瀬西浜・鵠沼海水浴場水浴場

江の島海水浴場協同組合
理事長 森井裕幸氏／豊原洋紀氏／金子ふたば氏

片瀬西浜・鵠沼海岸は、2021年4月16日に日本で5番目、民間団体ではアジア初のブルーフラッグビーチとなりました。1年を通してサーフィンやボディボードなどのマリンスポーツが盛んである藤沢市江の島の西側の海岸に位置し、都心からも近く年間100万人以上が訪れる国内で一番の来場者数を誇る海水浴場です。
海水浴場の開設は行政によって行われることが多い中、当海水浴場は藤沢市ではなく民間団体である江の島海水浴場協同組合が開設し、ブルーフラッグ取得活動も我々組合が主導して進めました。一海水浴場の組合が行政をはじめ、関係する多くの団体、キーマンとの交渉を重ね、協力を得ることができ、世界が認める「きれいで安心安全、誰もが楽しめる優しいビーチ」にするまでの過程を振り返りたいと思います。

片瀬西浜・鵠沼海水浴場は、湘南エリアの観光スポットである江の島をはじめ、富士山も望める恵まれた環境ということもあり、海水浴場のメッカとして全国にその名を知られ、1990年代までは地元にも愛され家族連れが多い海水浴場でした。しかし、時代とともに交通の便の良さから多くの若者が東京などから訪れ海の家のクラブ化問題が発生し、2000年を過ぎた頃から飲酒や喫煙、深夜まで鳴り響く音楽などを理由に地域住民からの苦情が増え、ビーチマナーや治安が悪化する事態となります。風紀の乱れなどから閉店時間を早めるなどの規制ルールを設けるものの、鎌倉市などの市の条例と異なり、組合による自主規制のため効果があまり望めず、家族連れなどは近隣の海水浴場に流れてしまいました。海離れによるレジャー人口の減少も重なり、近年での来場者数はピーク時の350万人から100万人にまで減少しました。
2018年、当海水浴場協同組合理事長に藤沢市鵠沼生まれの生粋のローカルである森井裕幸氏が就任し、「私が考える理想の海岸は、安心して安全で、家族みんなで楽しめるビーチであり、ゴミのない綺麗な砂浜、生分解性洗剤を使用した環境に優しい海の家、プラごみゼロも目指したい。障がい者やシニアも含めたバリアフリービーチへの対応も必要」とし、その時に出会ったのがSDGsであり、ブルーフラッグでした。「SDGsを推進するならばブルーフラッグを取らないとダメだ」と考え、ブルーフラッグについてはすでに取得していた由比ガ浜茶亭組合の増田組合長からお話を聞いており、湘南ビジョン研究所の片山理事長をご紹介頂き、片山理事長とは地元中学校が同じということもあり、地元の海を守り次世代へ繋げたいという考えで意気投合しました。すぐにブルーフラッグ認証取得に向けて動き出す決意を固め、湘南ビジョン研究所さんに全面的なサポートをお願いし、2019年12月1日江の島ヨットハウスで開催された「ブルーフラッグジャパンサミット2019」に参加し、認証取得海岸の関係者が一同に集まる場で当海水浴場も民間団体初のブルーフラッグ取得を目指したいと表明しました。他の開設者である行政と違い、ブルーフラッグ認証のための活動費は組合費でまかなう必要があり、組合員への説明と理解を得ること等の合意形成を図って行きました。
2020年1月、組合、藤沢市経済部観光シティプロモーション課、湘南ビジョン研究所のメンバーが集まり、33の項目をクリアするための今後の段取りと役割分担を話し合いました。事前調査を行ったところ、片瀬西浜は過去の海岸整備事業で下水道の配管接続やバリアフリートイレ、砂浜へのスロープなどの設備が完備されており、この部分の負担が少なかったことは非常に大きく、また、公益財団法人かながわ美化財団が大型重機での業者委託清掃を行う仕組みも出来ており、これから具体的に取り組むべき課題は、水質調査、環境教育、安全リスク調査、バリアフリー調査などと、300ページに及ぶ申請関係書類の作成でした。2020年2月の組合の総会で、ブルーフラッグ認証取得を目指すことが正式に可決され、いよいよ本格的に活動を開始することになります。しかし、この後世界的なコロナウイルスの猛威により、6月2日に海水浴場の開設中止が決定、海の家も休業となりましたが、海水浴場などのルールを決める藤沢市夏期海岸対策協議会（会長：鈴木恒夫）により、「夏期海岸藤沢モデル2020」が制定され、海岸の無秩序化や水難事故防止のために当組合も夏の海を知るエキスパートとして、藤沢市観光シティプロモーション課や神奈川県ライフセービング協会など多くの関係機関と協力し、組合員による海

岸パトロールを昼夜行うなどの状況の中で、ブルーフラッグ認証取得の活動も進めていきます。

ブルーフラッグの水質調査は初回申請時には海水浴場開設期間中に20回行わねばならないのですが、2本の河川に挟まれた片瀬西浜・鵠沼海岸は台風や大雨が続くと海水が影響を受けやすく、33項目の中でも最もハードルが高い項目でした。この水質調査には湘南ビジョン研究所さんの指導のもと、特定非営利活動法人西浜サーフライフセービングクラブさんが全面協力して下さり、日々の採水作業をライフガードの皆さんが引き受けてくださいました。我々の海水浴場の安全を守って下さっている西浜サーフライフセービングクラブは、1963年から片瀬西浜・鵠沼海岸を拠点に日本で最も伝統のあるライフセービング団体です。

また、これまでは組合員や海の家の有志で行っていたビーチクリーンを、湘南ビジョン研究所と共催で、海水浴場開設期間中の毎週土曜日と日曜日の朝に定期開催することにし、組合員はもちろんのこと多くの近隣住民の方が参加して下さり、関係団体や企業も加わりブルーフラッグ活動の輪が大きく広がるきっかけとなりました。海水浴場終了後の9月以降は、新江ノ島水族館さんが開催しているビーチクリーンに毎月参加しています。8月2日には環境教育の一環である、ブルーフラッグの基礎知識を高めるための勉強会「ブルーフラッグセミナー」を組合と湘南ビジョン研究所共催で開催し、多くの組合員とともに一般市民の方々にもご参加頂きました。8月29日に日本ライフセービング協会および西浜サーフライフセービングクラブの協力による安全リスク評価も実施され、この時にはFEE　Japan伊藤理事長による事前視察も行われ、認証取得のための改善事項が細かく指摘されました。

10月に入りバリアフリー調査も実施され、今年は海の家が休業のため全ての事前検証が出来ない中FEE Japanと交渉し、2021年に未実施部分を調査する事で容認していただき、進めることができました。認証基準としてバリアフリーマットの設置や水陸両用車椅子を完備することが定められていますが、バリアフリーマットはブルーフラッグの認証取得に賛同して頂いた地元藤沢の協賛企業に購入資金を、車椅子は藤沢市に提供していただくこととなりました。

300ページにわたる申請書の作成には、藤沢市観光シティプロモーション課が市の持っている資料の用意等全面的にバックアップして頂き、無事12月に提出することができました。取得のための活動により、当組合、藤沢市、西浜サーフライフセービングクラブ、湘南ビジョン研究所、その他各組織・団体の連携が深まったと強く感じ、感謝しています。

そして2021年4月16日、民間ではアジア初のブルーフラッグ認証を取得することができ、藤沢市長へ表敬訪問し報告いたしました。民間初の取得ということで、神奈川新聞の社説をはじめ新聞各社やタウンニュースなどに取り上げられました。また、藤沢市の協力で、市内全小中学校64校にブルーフラッグについてのポスターを掲示し、全生徒3万5千人にチラシを配布いたしました。その他、江ノ島電鉄もブルーフラッグ取得を盛り上げて下さり、江ノ電の駅構内にもポスターが掲示されました。このチラシの効果で、今も当組合には小中学生やその父兄からブルーフラッグについて問い合わせを頂いています。

コロナ禍の中、今年は海水浴場開設、海の家を営業することとなり、2021年7月3日には海開きの式典を行いましたが、日本各地で災害が発生するほどの大雨により式典の規模を縮小して行うこととになり、当初予定していたブルーフラッグ認証セレモニーは延期となってしまいました。そんな中、ブルーフラッグ取得により海水浴場には情報掲示板が設置され、神奈川県内では初めて津波フラッグについても掲示されました。

今年の新しい取り組みとして、ビーチのバリアフリー化のバリアフリーマットと水陸両用車椅子の他に、車椅子用のスロープを導入しました。こちらも藤沢市内の企業によるご協賛で提供いただき、今年度より西浜側の店舗への車椅子での入店が可能になり、西浜・鵠沼合わせて当海水浴場の31店舗全ての海の家への入店が可能になりました。さらに、企業からのお問い合わせも頂くようになり、丸紅フォレストリンク様が開発した循環型食器edishを海の家へ導入することが決まり、今年度は西浜と鵠沼の2店舗試験的に導入を始め、ゆくゆくは全店舗での展開ができるように進めていきたいと考えています。

昨年に引き続きビーチクリーンも毎週土曜日と日曜日の朝に開催し、今年は8月の半ばで海水浴場休場となりましたが、当初の予定の開設期間の間は継続して湘南ビジョンさんと共催で行いました。近隣の店舗さんやSDGsに関連する環境活動に熱心な企業さんがブルーフラッグに興味を持って頂き、ビーチクリーンへのご参加も増えています。コロナ禍で制限のある中でのブルーフラッグ1年目の活動となりましたが、関係各所のご協力のおかげで新しい片瀬西浜・鵠沼海岸の取り組みをスタートすることができましたことをお礼申し上げます。
最後に、この夏にブルーフラッグ認証セレモニーで発表していただく予定でした、地元藤沢の湘南学園小学校4年生による海へのメッセージをここで発表して頂きたいと思います。湘南学園小学校の中許先生、よろしくお願い致します。

第2部

ブルーフラッグ取得に向けた新たな取り組み

事例②　逗子海岸海水浴場

逗子市経済観光課長 黒羽秀昌氏
逗子海岸営業協同組合
理事長 菊池千春氏／勝田康司氏

■逗子市の紹介

逗子市は神奈川県のこの位置にあり、横浜市・鎌倉市・葉山町・横須賀市に接しています。「青い海と　みどり豊かな　平和都市」の都市宣言のとおり南西は相模湾に面し、緑も豊富な市です。JR線と京浜急行線の二本の電車が通っており、横浜まで約30分、東京まで約1時間というアクセスの良さから、テレワークの普及などで出社の機会が減った都内からの移住が増加しており、さらに人気の高まりのある市です。

■逗子海岸の紹介

市の中でも人気のスポットが逗子海岸です。逗子海岸は延長約850mの海岸で、「太陽が生まれたハーフマイルビーチ」のキャッチフレーズで親しまれています。　国道134号線を挟んですぐ後ろに住宅街があることや、近隣にマリンショップが立ち並ぶこと、JR逗子駅から徒歩10分程度というアクセスの良さから、散歩などでの市民の利用、マリンスポーツの体験、観光など一年を通して多くの来訪があります。

春には海岸に大型スクリーンを設置した映画祭が開催され、初夏には市内最大のイベントである花火大会が開催されます。そして夏はファミリービーチとして親しまれる海水浴場を開設します。秋には流鏑馬・ナイトウェーブが開催され、冬でもマリンスポーツが盛んです。環境面での関心も高く、個人・団体でのビーチクリーンのボランティアがとても多く、毎月第一日曜日には、市のアダプトプログラムと連携した逗子ビーチクリーン隊によるビーチクリーンが30年以上続けられており、昨年環境大臣から表彰も受けました。

■逗子海水浴場の紹介

逗子海岸に最も人が集まるのが、海水浴シーズンです。逗子海水浴場は、幅約600mのエリア内に40軒もの海の家が立ち並び、子ども用ライフジャケットの無料貸出や海上遊具「逗子海岸ウォーターパーク」を有するファミリービーチとしても親しまれています。昭和40年代には１日に30万人以上が訪れたとも言われています。

また、安心・安全で快適な海水浴場を維持するため、平成26年に「安全で快適な逗子海水浴場の確保に関する条例」の全部改正を行い、日本一厳しい条例として砂浜での飲酒・バーベキューの禁止、音楽スピーカーの使用禁止、他者を畏怖させる入れ墨・タトゥーの露出禁止を定めました。現場では市職員・市委託警備員・逗子海岸営業協同組合・警察等が連携してパトロールを実施しており、今年度は複数回注意しても違反行為をやめない利用者に対して、警察官立会いの下、退場勧告を行ったり、条例等を理解できない外国人利用者に対して外国人通訳アドバイザーを配置したりと、より安心・安全で快適な海水浴場とするため取り組んでいます。条例を改正した直後は来場者が減少しましたが、こうした取り組みにより、近年では30万人を超える方にご来場いただいており、ルールの浸透・イメージの定着が図れていると感じています。

逗子海水浴場がブルーフラッグ取得を目指したのは、「この素晴らしい逗子海水浴場を後世に残していきたい」、「さらによりよい海にしたい」という考えのもと、逗子海岸営業協同組合から取得の要望をいただいたことがきっかけでした。逗子市としても将来にわたり良好な海水浴場の環境を維持することはもちろん、世界基準の環境に優しい海水浴場として市内外にPRすることにより、イメージアップ・シビックプライドの醸成につながると判断し、ブルーフラッグ取得を目指すこととしました。また、先程申し上げた通り、環境に関して取り組む個人・団体が多く、それぞれが活動をしているため、ブルーフラッグを旗印に関係者が一丸となって取り組めるようにする狙いもあります。

■ブルーフラッグ取得に向けた取り組み

ブルーフラッグ認証取得に必要な水質調査・安全リスク評価・バリアフリー調査を実施し、結果待ちのものもありますが、概ね良好な結果となっています。これまでにも海水浴場開設期間中に逗子市観光協会が中心となって小学生向けに「ワッショイ！ずしかいがんサマーフェスティバル」というイベントを実施しており、多くの海岸関係者・市民有志が企画を持ち寄って、様々な角度から海に携わる'専門家'が多くいる逗子海岸ならではの企画を実施しています。その中の企画の一つとして、水辺を楽しむ安全教室やSDGs洗剤学校を実施しており、海の安全な楽しみ方や環境への関心を高める取り組みを実施しています。海の家においても環境への取り組みを実施されており、そちらについては逗子海岸営業協同組合さんからご説明いただければと思います。

清掃活動としては、年間清掃の他に海水浴場開設期間中は各海の家が毎日海の家前のビーチクリーンを行っており、海の家が多く立ち並ぶ逗子ならではの密度での清掃となっています。さらに市が配置するライフセーバーも業務前後などにビーチクリーンに取り組んでいます。また、それ以外に多くのボランティアが清掃活動を行っているため、来訪の多い海水浴場期間中でも綺麗なビーチが保たれています。特徴的な取り組みとして、隣接する鎌倉市・逗子市・葉山町が参加するマナーアップ推進協議会及び海岸組合から委託を受けたNPO法人ipledgeがコーディネートする「ごみゼロナビゲーション」があります。これは、ボランティアが中心となって主に繁忙期の土日休日に海岸入り口でごみの分別、街中でのポイ捨て禁止の呼び掛けを行う活動で、来場者の意識啓発と環境美化に大きく貢献しています。また、ボランティアの多くは都内の大学生であり、この活動を通じて逗子海水浴場に愛着を持ち、将来的な移住・定住につながることも期待しています。

■課題

環境教育や美化啓発については取り組めていますが、課題もあります。一つは市内におけるブルーフラッグの周知です。今年度水質調査等の本格的な取り組みに入る前にキックオフのイベントや宣言をしたいと逗子海岸営業協同組合や湘南ビジョン研究所と調整していましたが、新型コロナウイルス感染症のまん延やそれに対応する海水浴場の準備などにより企画が流れてしまいました。そのため、ブルーフラッグの周知が不足しており、海岸の環境等に取り組む多くの関係者が一丸となるための旗印とするまでの認識に至っていない状況です。ブルーフラッグの掲揚については、令和４年逗子海水浴場開設日を予定しているため、認証から掲揚までの間にイベント等により周知し、掲揚式には多くの方に関心をもっていただけるようにしたいと考えています。また、この後講演のあるリビエラ逗子マリーナでの国内初のブルーフラッグ取得ともタイアップさせていただき、逗子市一体でのPRができればと考えています。

二つ目はバリアフリーについてです。こちらについては逗子海岸営業協同組合さんからご説明いただければと思います。

■今後に向けて

今後はまずは認証を取得することです。その後に掲揚式の調整を進めますが、新型コロナウイルス感染症のまん延状況に応じた対応が必要となるため、関係者と密に連携を図りながら進めていきたいと思います。また、その前段として掲揚式までに自治総合センターのシンポジウム助成事業を活用したブルーフラッグシンポジウム（仮）を開催し、市内外へのブルーフラッグ周知に取り組むよう、助成申請の手続きを進めています。新型コロナウイルス感染症のまん延状況にもよりますが、最大で500人を超える規模のオフラインイベントとしたいと考えており、11月中に採択の結果通知を待っている状態です。現場では、ブルーフラッグビーチに恥じないよう、先程のバリアフリー対応の調整や警備員・ライフセーバーといった常駐するスタッフへの教育を行い、皆さんをお迎えできるように準備を進めてまいります。

来年は是非ブルーフラッグを取得した逗子海水浴場にお越しください。関係者一同心よりお待ちしています。

■ブルーフラッグ水質調査の実施状況

第3部 研究報告

海辺の環境保全活動と市民ネットワークに関する研究
-国際環境認証「ブルーフラッグ」認定地域を題材に-

文教大学国際学部教授　海津ゆりえ氏
（海津ゆりえ・片山清宏・菅原周一：未発表）

■研究論文報告

研究主旨

- 先行論文（2021）よりブルーフラッグ取得の成果を把握
  - ブルーフラッグ取得海水浴場は、取得に至ったそれぞれの背景を有しており、取得後にその成果を測定していること
  - ブルーフラッグは、「環境教育」「水質」「環境マネジメント」「安全・サービス（快適性）」の**バランスのとれた海水浴場に向かうためのガイドラインとなる**しかけであること

↓

- 今後、取得を目指す地域に向けた手掛かりを提供したい
  - 取得に向けた準備事項を明らかにする
  - 継続に向けた活動事項を明らかにする
  - ブルーフラッグがもたらす市民ネットワーク構築の可能性を明らかにする

海水浴場の意味を問い直したい（背景）

- 海が与える「癒し」効果は立証されている
  - 潮湯治（江戸時代）、海水浴（明治）、海洋療法（現代）
  - ウェルネスツーリズム、ヘルスツーリズム
- 近年、海を取り巻く諸課題と人々の海離れ
  - 海水浴場の迷惑施設化
  - 海辺と環境問題
    - マイクロプラスチック、海岸漫食、海洋汚染　etc.
  - 自然海岸の喪失
  - 津波と防潮堤
  - 海水浴より・・・

研究手法

ブルーフラッグ取得５海水浴場の設置機関・管理機関へのヒアリング

- ①環境教育、②水質、③環境マネジメント、④安全性・快適性に関して
- 取得までの準備事項
- 継続時の活動事項
- ブルーフラッグ取得による地域の変化

海水浴場	月日	インタビュー相手
鎌倉市由比ガ浜	2021年9月3日	由比ガ浜茶亭組合A氏
	2021年8月29日	鎌倉市観光課B氏
高浜町若狭和田	2021年9月1日	高浜町産業振興課C氏・若狭高浜観光協会D氏
神戸市須磨	2021年9月6日	神戸市港湾局海岸防災課H氏
山武市本須賀	2021年9月4日	山武市収税課G氏
藤沢市片瀬西浜・鵠沼	2021年9月2日	江の島海水浴場協同組合E氏・藤沢市観光課F氏

- 調査協力者：湘南ビジョン研究所有志メンバー

ブルーフラッグ認証基準33項目

■環境教育

基準１　BFやFEE、その他の認証に関する情報の掲示
基準２　ビーチ利用者への環境教育活動
基準３　ビーチの水質に関する情報の掲示
基準４　ビーチの生態系や環境問題に関する情報の掲示
基準５　ビーチにおける関連施設を示す地図の掲示
基準６　ビーチや周辺地域の利用に関する法令を反映した行動規 範の掲示

■水質

基準７　水質測定基準と頻度についての要件
基準８　水質測定分析についての基準と要件
基準９　産業排水や下水等の排水のビーチエリアへの影響
基準10　ふん便性大腸菌、腸球菌（連鎖球菌）の測定指標制限値
基準11　水質に関する物理的・化学的な測定指標制限値

■環境マネジメント

基準12　BFビーチ管理委員会の設立（努力基準）
基準13　ビーチに関連するすべての規制の遵守
基準14　影響を受けやすい自然環境地域の管理
基準15　ビーチの清掃管理
基準16　生態系保護
基準17　ごみ箱の設置、維持管理
基準18　ごみの分別、リサイクル
基準19　トイレや洗面所の設置数
基準20　トイレや洗面所の清掃管理
基準21　下水処理
基準22　無許可のキャンプや車両の進入、不法投棄
基準23　ペット管理
基準24　建物とビーチ設備の維持管理
基準25　ビーチの近隣にあるサンゴ礁や海藻藻場の保護
基準26　交通手段の整備（努力基準）

■安全とサービス

基準27　公共安全管理対策の実施
基準28　救急設備の設置
基準29　汚染リスクに対する緊急対策
基準30　トラブルや事故の防止
基準31　ビーチ利用者への安全対策
基準32　ビーチでの飲料水の供給（努力基準）
基準33　障がい者向けのアクセスと設備

「環境教育」―①環境教育、②情報

海水浴場	実施した準備事項	認証継続に向けた活動事項
由比ガ浜	・市と海浜組合が連携して以前からプログラムを実施していた。 ・環境教育を専門とする地元NPO法人に委託し必要なプログラムを追加実施。 ・鎌倉・逗子・葉山海水浴場マナーアップ推進協議会を発足(2014)し、マナー向上を目指した。	・多くの関係団体や地域住民を巻き込み、年5回の環境教育プログラムを実施しており、環境教育の幅が広がった。 ・海岸清掃と組み合わせたプログラムも実施している(2020より中断)。 ・SMART BEACH PROJECTの「ゴミナビゲーションプロジェクト」は継続。(学生がごみステーションで分別を指導する環境教育プログラム)
若狭和田	・大学研究室による生き物調査と結果の公開。	・ライフセービングやビーチコーミングと組み合わせた環境教育や学校との連携など、地域の多様な主体との連携による環境教育プログラムが多数開発された。
須磨海岸	・ビーチクリーンを専門とする全国的NPO法人、生態系保全活動を行う地元任意団体、ライフセービングを専門とするNPO法人によるプログラムの実施。	・BF取得前と変化なし。
本須賀	・地元任意団体のボランティアガイドによる講義の実施。	・県立高校への出前講座の一つとしてBFを組み込む。 ・委託事業者が市内中学校で海の安全やBFについての講座を実施。 ・砂浜が広く、全国規模のビーチサッカーやビーチバレー大会が開催できる可能性がある。
片瀬西浜・鵠沼	・地元NPO法人のアドバイスを得て、組合理事と組合員の勉強会(BFについて)を実施。 ・上記の後、組合員が市内2企業に環境教育やBFの説明を行う(ライフセービングクラブ、バリアフリー関連企業)。	・近隣に環境教育への協力者、実践者が広がっている。

環境教育は取得前に実施していた活動が引き継がれ、継続している。
BFを機に、諸団体が連携してさらに展開した海水浴場が多い。

②広報

海水浴場	実施した準備事項	認証継続に向けた活動事項
由比ガ浜	・取得前の広報は実施していない。	・由比ガ浜茶亭組合Webを通じた発信。 ・各種メディアの取材に応じている。
若狭和田	・福井県立大学による生き物調査結果の公開	・ライフセーバー、ビーチクリーンのYoutube動画作成、1歳児の海デビューチラシ作成などを実施。
須磨海岸	・ビーチの健全化を目指してＢＦ取得を目指すことを広報。	・BF取得前と変化なし。
本須賀	・なし	・地元団体のビーチクリーンに市として参加し、BFを掲揚し、BFのPRに努めている。市広報で2019年度にBFを特集。
片瀬西浜・鵠沼	・ＢＦの取得を目指していることをラジオで広報	・BF取得セレモニーやビーチクリーン多数のメディアから取材を受けた他、小中学校の全生徒にチラシを配布したほか、駅に掲示板を貼付。 ・BF情報とともに津波フラッグなどを掲示。 ・市防災安全部と相談して記載。

自治体が設置・管理する海水浴場は「市広報」を活用。
民間が設置管理する海水浴場は多様な主体との連携が広報の役割を果たす。
活動自体が広報性をもつ

「水質」

海水浴場	実施した準備事項	認証継続に向けた活動事項
由比ガ浜	・海水浴場開設に関わる水質調査は神奈川県が実施。 ・採水はライフセーバーに依頼(ボランティア)　進行管理、調査分析、報告はNPO法人に委託し、鎌倉市に提出。 ・分析費用は由比ガ浜茶亭組合が出資。	・BF取得前の体制を継続し、開設期間前に1回、開設期間中に5～6回の採水と測定を行う。
若狭和田	・民間企業に採取、分析を委託。 ・費用は高浜市から若狭和田観光協会への委託費。	・「若狭高浜ブループロジェクト」として藻場の保全・再生、ムラサキウニの駆除等を実施。高浜町から観光協会へ委託。
須磨海岸	・海水浴場開設に関わる水質調査は神戸市が実施 ・BF取得に関わる水質調査は民間企業に委託。	・BF取得前と変化なし。
本須賀	・民間企業に採取、分析を委託。経費は約100万円を要する。	・BF取得前と変化なし。
片瀬西浜・鵠沼	・ライフセービング団体が時期を選定して採水し、調査分析と報告をNPO法人に委託。	・課題である鵠沼側の下水道工事の必要性を再認識している。

技術・費用を要する。
業務委託の場合と、ライフセーバーやNPOとの連携によって採水・分析を行う場合がある。
下水道が完備されている海水浴場は少ないが、水質向上においては必須。

「環境マネジメント」①管理委員会（努力基準）

海水浴場	実施した準備事項	認証継続に向けた活動事項
由比ガ浜	・管理委員会は立ち上げていないが、関係者会議（「協議会」）を市が開催し、取得までに4回開催。	・BF取得前からの関係者会議を継続。取得翌年3回、以降年1回開催に縮小。2020年以降は中断。
若狭和田	・ブルーフラッグ推進部会を取得前年（2015）に結成	・BF取得前の体制を継続。
須磨海岸	・須磨海岸健全化コアメンバー会議（2008年発足）で年2～3回議論。	・BF取得前と変化なし。
本須賀	—	・BF取得前と変化なし。
片瀬西浜・鵠沼	・藤沢市夏期海岸対策協議会がBF取得前から海水浴場を運営。活動財源は市の支援金。	・藤沢市下記海岸対策協議会2021年度総会でBF取得を報告。体制は整っているため、取得前と変化なし。

海水浴場設置にかかわる会議体が管理委員会を兼ねる例が多い。BFが検討項目に追加される形。

②海岸清掃、ゴミ処理、リサイクル

海水浴場	実施した準備事項	認証継続に向けた活動事項
由比ガ浜	・かながわ海岸美化財団が海水浴場開設期間は、毎日清掃活動を実施。 ・市が海岸にゴミ箱を設置し、分別とリサイクルを委託事業としている。 ・SMART BEACH PROJECT（2016開始）により環境マネジメントを実施。	＜海岸清掃＞ ・BF取得前の活動を継続する他、環境教育プログラムを組み合わせたり、ビーチコーミングと海岸清掃を兼ねる展開を行なっている。 ・2020年はコロナで海水浴場が閉鎖されたが下記2つの海岸清掃プロジェクトを実施した。 ①日本財団「海と日本プロジェクトCHANGE FOR THE BLUE」の一環で海の家従事者が作る団体と連携し毎日清掃活動を実施（2021）。 ②海水浴場に連なる複数の組合が連携し、アルバイトを雇用して2020-2021年の海水浴場開設期間に毎日清掃活動を実施。 ＜ゴミ処理・リサイクル＞ ・ゴミ箱設置、分別、リサイクル、SMART BEACH PROJECTは取得前と同様に継続するが、ボランティア代わりにNPO法人職員が参加。 ・市民が漂着ごみとされる海藻を飼料化し、育てた豚をブランド化する活動を始める。 ・海藻採取に障がい者が参画したり、海の家でリユース食器を使用する活動を由比ガ浜茶亭組合が主導するが未実施。
若狭和田	・地域団体により年4回のビーチクリーンを実施。 ・観光協会と海浜組合により海水浴場開設期間の毎日朝6時のビーチクリーンを実施。	・海水浴場開設期間中は、海水浴客を巻き込んだ「ビーチクリーンタイム」を実施。 ・海水浴場開設期間以外も含めてビーチクリーンイベントを実施。 ・分別ゴミ箱の設置と回収作業の実施。 民間団体の協力によりペットボトルのアップサイクルプロジェクト「オーシャングラス」を実施。
須磨海岸	・ビーチクリーナーを利用した毎日の海岸清掃、ごみ収集、分別、リサイクルを業務委託。 ・ボランティアによる海岸清掃。 ・行政主体で「スマイルビーチプロジェクト」を実施。	・BF取得前と変化なし。
本須賀	・地元任意団体のビーチクリーンへの参加（2018～）。 ・市内全域のビーチクリーンを市から観光協会へ委託しており、本須賀もその一環。 ・ゴミ箱は設置していない。	・BF取得前と変化なし。
片瀬西浜・鵠沼	・神奈川県が設置したゴミ箱と藤沢市が設置したゴミ箱が混在。 ・回収はかながわ海岸美化財団に委託。リサイクルには取り組んでいない。	・BF取得前と変化なし。

＜拾う＞多様な立場の組織・団体が参画。　＜処理＞アップサイクル、自治体連携、専門機関（かながわ環境美化財団など）

③トイレ、汚水処理

海水浴場	実施した準備事項	認証継続に向けた活動事項
由比ガ浜	・市が管理する公設トイレ2箇所が既設。 ・認定取得に際して車椅子で使用できる障がい者用トイレと無料のシャワーの併設施設を整備。 ・下水道がなく、更衣・シャワー施設の排水と海の家からの雑排水は浸透枡で処理、汚水とトイレの排水は汲み取り式。	・基本的に取得前と変更はなく継続している。 ・積年の課題である汚水処理について、浸透枡から下水本管までを市が設置し、枡から海の家までの下水管を組合が設置する方針で2021年度に議論予定だが未整備。 ・海の家全店で環境負荷を与えない（100%植物由来）石鹸、洗剤を使用する方針を立てている。
若狭和田	・下水道がある。公共トイレ、海の家、ライフセーバー詰め所のトイレは公共下水道につながっている。 ・公共トイレの清掃はシルバー人材センターに町から委託。	BF取得前と変化なし。
須磨海岸	・下水道がある。公共トイレ、仮設トイレの排水は下水道へ。 ・管理レベルが下がらないよう、トイレの清掃は業者へ委託。	・BF取得前と変化なし。
本須賀	・下水道はない。公共トイレ、海の家の排水とも合併浄化槽へ	BF取得前と変化なし。
片瀬西浜・鵠沼	・下水道がある。常設トイレは県が設置し下水道へ直結。 ・仮設トイレは市が設置し汲み取り式。	・BF取得前と変化なし。

・下水道完備～汲み取りまで多様　・海の家やライフセーバー詰め所を含めた下水道完備（若狭和田、須磨）
・下水道はあるが常設トイレのみ接続、仮設は汲み取り式（片瀬西浜）・下水道がなく、トイレは汲み取り式、雑排水は浸透枡処理（由比ガ浜）

「安全とサービス」ー①安全リスク管理体制

海水浴場	実施した準備事項	認証継続に向けた活動事項
由比ガ浜	・鎌倉市と神奈川県ライフセービング協会が随意契約を結び、地元のライフガードが派遣されている。20年以上の長期にわたる信頼関係があり、地形を熟知したライフセーバーが担当。 ・有事の際は消防署、海上保安庁と連携し救難活動を行う。外洋に流された場合は海上保安庁が捜索、救助を行う。	・BF取得前と変化なし。2020-2021年に実証実験を行ったドローン活用型水難救助訓練は評価高く、継続の可能性あり。
若狭和田	・安心・安全な海構築会議（旧「ジェットスキー対策会議」）	・ライフセービング体験を提供。
須磨	・海水浴場開設期間の安全管理と救護はライフセービングを専門とするNPO法人に業務委託。 ・24時間パトロールによる治安維持を民間企業に 業務委託し、必要な場合は警察と連携。	・BF取得前と変化なし。
本須賀	・山武市が民間企業に 委託し、ライフセーバーの 派遣を依頼。海岸へのアプローチ道路はオフシーンに閉鎖し防犯や漁業資源を保護している。	・BF取得前と変化なし。
片瀬西浜・鵠沼	・地元ライフセービングクラブの全面協力を得て安全管理を実施。	・ライフセービング団体との連携が密 になり、活動提案をもらうなど良い関係が築けている。藤沢市を交えた三者会議が増え、LINEを活用した日常的なコミュニケーションも活発化した。 ・ライフセーバーは組合が契約し、経費は市 からの補助金を活用。コロナ休業中は市が負担。

各海水浴場ともライフセーバーが活躍。場所により安全管理を専門とする企業や警察と連携したパトロールを行う。

②バリアフリー

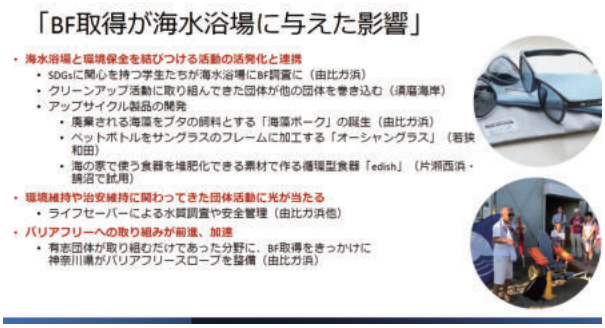
海水浴場	実施した準備事項	認証継続に向けた活動事項
由比ガ浜	・バリアフリーツアーを専門とするNPO法人のアドバイスを 得て、海岸の高低差をクリアする方法その他を検討。 ・バリアフリーマットを購入。出資は由比ガ浜茶亭組合による。	・具体的な展開があった。取得年に11店舗、翌年2店舗、3年目から全店舗で車椅子利用を可能にする改修を依頼。 ・3年目から全店舗をつなぐ800mのボードウォークを設置し、評判となった。神奈川県が経費を出資してくれ、組合は設置と管理を実施。ボードウォーク用の材木は地元材木店が値引き協力をしてくれた。 ・海までのマット（モビマット）は外務省の外郭団体を通じて紹介されたフランスのメーカーから調達し、毎年買い足している。 ・段差を 克服するためのスロープを2020年 夏までに神奈川県が整備（オリンピックに合わせた）。 ・水陸両用車椅子を2台調達（組合、市が１台ずつ予算負担）。使用の際は市の委託事業として障がい者の専門家が週末（土日祝）に駐在。 ・駐車場からの介助が可能となるよう、NPOと連携しモデルを作成。
若狭和田	・推進部会メンバーに障がい者団体のNPO法人が参画。バリアフリーマットや水陸両用車椅子の導入アドバイスを得る。	・障がい者団体（養護学校など）と連携し、海に入るイベントを実施（年4回）。
須磨	・障がい者ボランティアを専門とするNPO法人が所有するビーチマットを週末・祝日に敷設。平日は水陸両用車椅子で対応。	・BF取得前と同じ。
本須賀	―	・波打ち際へのアプローチ用のウッドロードを地元材木店に委託し、水陸両用車を１台購入した。
片瀬西浜・鵠沼	・バリアフリーツアーを専門とするNPO法人のアドバイス、BF取得推進を支援するNPO法人のサポートにより調査を実施。	・取得後にもバリアフリー調査を実施し、課題を見つけてしに要望を希望している。 ・障がい者の視点に立った段差の解消や海の 家のシャワーの改善を図った。水陸両用モビチェア2台を市から、砂上を走れる車椅子１台を民間企業に購入してもらい、利用に供した。 ・バリアフリーは企業協賛、NPOからの支援、ライフセービング団体による作業サポートなど連携を生み、障がい者にも楽しんでもらえた。

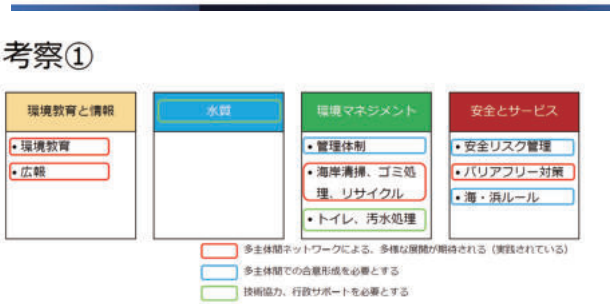
BFによって開拓された新しい分野。NPO、行政、企業（海外含め）などとの連携でそれぞれ工夫

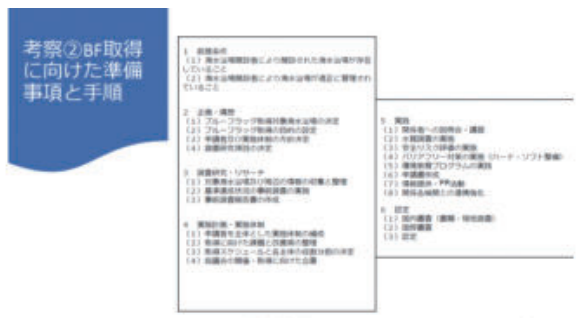
③海浜ルールの策定

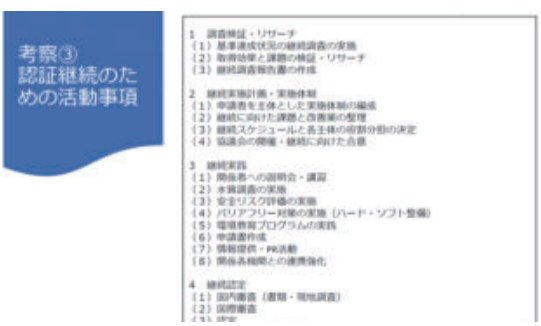
海水浴場	実施した準備事項	認証継続に向けた活動事項
由比ガ浜	・海水浴場開設期間だけでなく通年のルールが必要と考え、2002年に「海・浜のルールづくり研究会」を発足し、2004年に適用開始。 ・市民と来訪者が快適 に利用し共生するためのルールを「鎌倉海・浜のルールブック」で示す。 ・2016年に 開始した「SMART BEACH PROJECT」で海岸 の風紀改善と維持に取り組む。	・基本的に取得前と変更はない。 ・SMART BEACH PROJECTの一環として、海水浴場開設期間に飲酒、喫煙、刺青などのルールを徹底。
若狭和田	・「若狭高浜海のルールブック」策定。	・基本的に取得前と変更なく継続。
須磨	・2008年より須磨海岸健全化コアメンバー会議を結成し、ルール作りに取り組む。	・BF取得前と同じ。
本須賀	・海浜ルール、利用別ゾーニングなどはない。	・BF取得前と同じ。
片瀬西浜・鵠沼	・海水浴場での喫煙ルールは神奈川県条例を適用。 ・海浜ルール の協議会を設 け、治安維持を専門とするNPO法人の協力により徹底	・由比ガ浜 を参考に、セキュリティ会社 のセキュリティを週末とお盆期間に導入した 。今年はソーシャルディスタンスの保持、階段への座り込みや通路での飲食を控えるよう観光客に依頼し、効果があった。 ・声かけの際にパネルを持って呼びかけ、ビーチクリーンをしながらパトロールしてくれた。休業保証は藤沢市が行った。

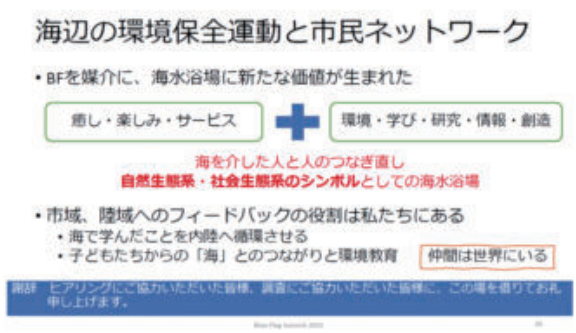
各海水浴場とも古くから必要とされ、策定してきた経緯があり、策定。ルールから条例まで多様な展開。ルール順守を呼びかける団体の協力も得る。





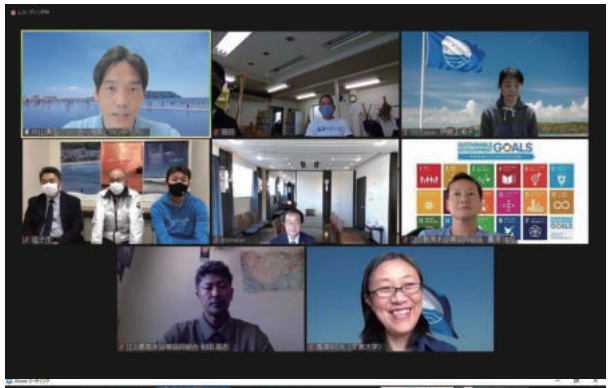






■謝辞

本論文の執筆にあたり、湘南ビジョン研究所の壱岐信二さん、伊藤美保さん、久保卓さん、白田祐子さん、西尾英子さんに大変お世話になりました。調査にご協力くださった各海水浴場の設置責任自治体および海浜組合の皆様に感謝申し上げます。



14 海の豊かさを守ろう

第3回 海を守り、未来をつくる

無料
オンライン
開催

BLUE FLAG Japan サミット 2021

国内5都市のブルーフラッグ認証海岸の関係者が一堂に会する全国シンポジウム

2021年11月20日（土）AM 8：30 ～ 11：30

定員100人 ／ 参加費 無料

1 開会・基調講演

伊藤正侑子 ［NPO法人 FEE Japan 理事長］
松岡大祐氏 ［国立研究開発法人 海洋研究開発機構 副主任研究員］

2 事例報告・活動紹介

森井裕幸氏 ［江の島海水浴場協同組合 理事長］
黒羽秀昌氏 ［逗子市経済観光課長］
菊池千春氏 ［逗子海岸営業協同組合 理事長］
山崎哲雄氏 ［株式会社リビエラリゾート 専務取締役］

3 研究報告・閉会

海津ゆりえ氏［文教大学国際学部 教授］
片山清宏 ［NPO法人湘南ビジョン研究所 理事長］

福井県高浜町
「若狭和田海水浴場」

千葉県山武市
「本須賀海水浴場」

兵庫県神戸市
「須磨海水浴場」

神奈川県藤沢市
「片瀬西浜・鵠沼海水浴場」

神奈川県鎌倉市
「由比ガ浜海水浴場」

ブルーフラッグとは、国際NGO FEE（環境教育基金）による世界で最も歴史ある国際環境認証の一つ。①水質、②環境教育・情報、③環境マネジメント、④安全性・サービスの4分野、33項目の認証基準をクリアしたビーチ等に与えられる。1985年にフランスで誕生、現在世界49ヶ国、4,820ヶ所が取得。日本国内の認証海岸は5ケ所のみ。ブルーフラッグを取得する意義は、ビーチ、マリーナ等の周辺地域の持続可能な発展を促進することにある。

［主催］ NPO法人湘南ビジョン研究所、NPO法人FEE Japan
［後援］ 文教大学湘南総合研究所

海を守り、未来をつくる

第3回　BLUE FLAG Japan サミット 2021　オンライン開催

ブルーフラッグは、1985年にフランスで誕生し、現在世界49ヶ国、約4,820ヶ所ビーチやマリーナ等が取得しています。国内においては、2016年4月に鎌倉市「由比ガ浜海水浴場」、高浜町「若狭和田海水浴場」、2019年4 月に神戸市「須磨海水浴場」、山武市「本須賀海水浴場」、2021年4月に藤沢市「片瀬西浜・鵠沼海水浴場」が認証され、国内5か所のブルーフラッグ認証海水浴場が誕生。しかし、各自治体が抱える海岸の課題は多様で、各地域では試行錯誤しながら毎年更新しています。そこで、この度、国内5都市のブルーフラッグ認証海岸の関係者が一堂に会して認証取得の意義を再確認し、ブルーフラッグビーチの現状と課題を共有するとともに、国内におけるブルーフラッグ認証地域の普及による海辺からのSDGsの実現に貢献することを目的に「BLUE FLAG Japanサミット2021」を開催します。

プログラム

第1部　8:30〜

● 開会 / 主催者代表挨拶

伊藤正侑子氏 ［NPO法人 FEE Japan 理事長］

スカンジナビア政府観光局アジア太平洋地区総括本部代表、NPO法人グリーンサンタ基金 代表理事を経てFEE Japan理事長に就任。日本において、BLUE FLAG、Eco-Schools、LEAF、Green Key等の環境教育プログラムを運営・実施。

● 基調講演　**「人工知能(AI)を用いた海洋プラスチックごみの現存量調査に向けた取り組み」**

松岡大祐氏 ［国立研究開発法人 海洋研究開発機構(JAMSTEC)副主任研究員］

山口県周防大島生まれ、横浜市在住。博士(工学)。東京工業大学 客員准教授、科学技術振興機構さきがけ研究者、トロント大学客員 准教授、東京海洋大学客員准教授を歴任。専門は情報科学(人工知能)および地球科学(気象、海洋、水産、地震津波等)への応用。

第2部　9:30〜

● 事例報告　**「民間団体によるアジア初のブルーフラッグ取得への挑戦」**

事例① 片瀬西浜・鵠沼海水浴場

江の島海水浴場協同組合

理事長　森井裕幸氏／豊原洋紀氏／金子ふたば氏

● 活動紹介　**「ブルーフラッグ取得に向けた新たな取り組み」**

事例② 逗子海岸海水浴場

逗子市経済観光課長 黒羽秀昌氏

逗子海岸営業協同組合

理事長 菊池千春氏／勝田康司氏

事例③ リビエラ逗子マリーナ

株式会社リビエラリゾート

専務取締役　山崎哲雄氏

第3部　10:50〜

● 研究報告　**「海辺の環境保全活動と市民ネットワークに関する研究」**

海津ゆりえ氏 ［文教大学国際学部教授］

鎌倉在住。農学博士。有限会社資源デザイン研究所代表取締役社長、文教大学国際学部准教授等を経て現職。NPO法人日本エコツーリズム協会理事、環境省エコツーリズム推進会議委員、鎌倉市観光協会理事等を歴任。専門：エコツーリズム論。

● 総括 / 閉会

第1部〜第3部　参加者とのクロスセッションあり

片山清宏氏 ［NPO法人 湘南ビジョン研究所 理事長］

藤沢生まれ。1999年厚木市役所、イギリス・スウェーデン海外研修派遣、神奈川県庁を経て、松下政経塾(31期)入塾。2011年NPO法人湘南ビジョン研究を設立、理事長に就任。海の環境問題に取り組む。2019年「かながわ地球環境賞」受賞。

お申し込み お問い合わせ

申込方法：以下メールに参加者の「氏名」「メールアドレス」「所属」をお送りください。ZoomのURLをお送りします。

NPO法人 湘南ビジョン研究所
FB https://www.facebook.com/shonanvision/
HP https://shonan-vision.org/
mail info@shonan-vision.org
tel 090-9017-2459

湘南VISION大学

海をもっと楽しもう!

「湘南VISION大学」とは、NPO法人湘南ビジョン研究所が主催する「海」の環境教育に特化した市民大学です。
「海をもっと楽しもう!」をテーマに、海を体感するアクティビティやワークショップを通して、海の生き物や環境、歴史、海の楽しみ方を学びます。学校教育法が定める国立や私立大学ではなく、子どもからシニアまで、誰もが入学できる「海の学び場」です。当大学は、国連サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の理念に共感し、「14.　海の豊かさを守ろう」の達成に貢献することを目指しています。2018年5月5日に設立・開校し、4年間で154講座開催、合計4,801人の生徒に受講いただきました。

ミッション

「湘南の海を守り、未来をつくる人」をつくる

NPO法人湘南ビジョン研究所は、国連サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の「14. 海の豊かさを守ろう」を達成するために、具体的なアクションとして、①海づくり（ブルーフラッグの取得推進）と、②人づくり（湘南VISION大学の運営）を実践しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

SHONAN VISION

特徴

① 海を知り、体験できる学び場

教室は湘南の海。海を体感・体験してもらう魅力的なアクティビティ、ワークショップを用意。海を知って、思いっきり楽しめる大学です!

② 海を専門とする多彩な講師陣

講師は海を専門とするアスリート、社会起業家、経営者ほか、一流の研究者。自分が先生になることもできる、みんなでつくる大学です!

③ 海ゼミの仲間と交流、実践

授業には海を楽しむ仲間がたくさん参加。授業後に海ゼミをつくって交流を続けるのもOK。一人ひとりの「イキイキ」を応援する大学です!

海辺の国際認証ブルーフラッグ認証取得を目指そう!!

NPO法人湘南ビジョン研究所は、「湘南海岸からアジア初のブルーフラッグ取得をめざす」とNPOでは全国で初めて宣言し、鎌倉市「由比ガ浜海水浴場」（2016年認証）と藤沢市「片瀬西浜・鵠沼海水浴場」（2021年認証）で取得。現在は、逗子市「逗子海岸海水浴場」と「リビエラ逗子マリーナ」で取得に向けたサポートをしています。また、ブルーフラッグ認証海岸の関係者が一堂に会するBLUE FLAG Japanサミットを2019年から毎年開催しています。

NPO法人湘南ビジョン研究所では、全国のブルーフラッグ認証取得のご相談にも対応しています。

- ●現状調査　●課題分析　●環境教育
- ●水質調査　●安全リスク調査
- ●バリアフリー調査
- ●取得に向けたプランニング
- ●ブルーフラッグ事例勉強会　ほか

セブン-イレブン記念財団　この活動は一般財団法人セブン - イレブン記念財団の助成を受けています。

SHONAN VISION Social Magazine Vol.50 2021.10・11

PUBLISHER：片山清宏
EDITOR：壱岐信二
ART DIRECTOR：大戸千尋
COVER PHOTO：逗子市

湘南ビジョン研究所
https://shonan-vision.org/
@shonanvision
info@shonan-vision.org
090-9017-2459

SHONAN VISION vol.53 | 2022年01月号　2022年01月25日発行　発行：NPO法人湘南ビジョン研究所　〒251−0027神奈川県藤沢市鵠沼桜が岡3−9−29　shonan-vision.org